３　広域推進一覧

区　分	推進事項 （関連事業）	担当者	活動年次				
			3	4	5	6	7
担い手	地域農業・農村を支える多様な担い手の育成	田中主査 橋本主任 高橋係長 千石主査 工藤主査 杉村専普 水沼普指 田中普指 神野係長 秋松主査 小島専普 荒木普指			○		
情報・ クリーン・ 有機	情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信	中村主査 釣谷主任 千石主査 杉村専普 水沼普指 道端普職 近藤主査			○		
	安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進	中村主査 釣谷主任 千石主査 水沼普指 西野普職 近藤主査			○		
高付加価値化	農商工連携による農畜産物の生産販売の振興	安田主査 釣谷主任 工藤主査 杉村専普 田中普指 近藤主査 小島専普			○		

３　広域推進事項

(1) 担い手

活動年次	令和５年度	担当班	本所広域班
推進事項と主な目標	・地域農業・農村を支える多様な担い手の育成 ①管内広域組織の活動強化による活性化 ②新規就農者の経営能力向上（るもい農業基礎ゼミナール） ③女性農業者の経営資質の向上及びリーダー育成 ④農業法人の持続的な経営の安定		
対　　象	留萌管内担い手		
担 当 者	田中主査　橋本主任普及指導員　　髙橋係長 千石主査　工藤主査　杉村専門普及指導員 水沼普及指導員　田中普及指導員　神野係長 秋松主査　小島専門普及指導員　荒木普及指導員	連携機関	管内８市町村、ＪＡ留萌振興局、遠別農業高校、留萌指導農業士・農業士会、管内農業委員会
関連事業	地域担い手対策事業、次代を担う女性農業者の活躍サポート事業		

１　活動のねらい

(1) 管内広域組織の活動強化による活性化

ア 青年農業者組織の活性化支援

各組織の活動の活発化を図り、留萌管内４Ｈクラブ連絡協議会の運営体制及び活動内容の充実につなげる。また、４Ｈクラブ連絡協議会の行事（夏季交流会・ファーマーズトークｉnRUMOI・冬期研修会等）について、会員以外の青年農業者や新規就農者の積極的な参加を推進し、４Ｈクラブ等青年農業者組織への加入促進を図る。

(2) 新規就農者の経営能力向上

ア 新規就農者の育成・確保

新規就農者を対象に「るもい農業基礎ゼミナール」を開講し、「栽培管理技術」の習得と「地域（市町村）を越えた仲間作り」による新規就農者の地域への定着を図る。地域係と連携し巡回指導及び経営相談等のフォローアップを併せて行い、栽培管理技術の定着と経営管理能力向上を図る。また、「るもい農業基礎ゼミナール」を開講することにより、対象となる新規就農者の把握を行い関係機関との情報共有を図る。

(3) 女性農業者の経営資質の向上及びリーダー育成

ア 若手農業者の育成確保

若手女性農業者を対象に、研修会等学習や情報交換の場を提供し、若手女性農業者同士の交流を図るとともに、経営管理能力向上と将来留萌農業を担うリーダー育成を目指す。

(4) 農業法人の持続的な経営の安定

ア 農業法人の安定化支援

管内農業法人の抱えている問題を解決するため、法人への聞き取りによる情報収集及び農業法人セミナー等研修会の開催により、構成員や従業員のスキルアップを図り、地域の核となる法人の育成につなげる。

イ 農業法人のネットワーク化

管内農業法人間の情報共有・意見交換の場を設け、各法人個々が抱える課題を解決し、持続的な経営の安定化を図る。また、定期的及び継続的に情報交換、交流できる体制を整備する。

２　活動内容と結果

(1) 管内広域組織の活動強化による活性化

ア 青年農業者組織の活性化支援

(ｱ) ファーマーズトークinRUMOIの開催

４Ｈクラブ等青年組織や青年農業者が日頃行っている取組発表や情報交換、交流の場として平成31年度より「ファーマーズトークinRUMOI」を開催している。令和３年度より２日間の開催で、遠別農業高校との交流や情報交換を併せて行っている。

参集範囲を留萌管内４Ｈクラブ連絡協議会会員に限らず、農業基礎ゼミナール生や興味のある青年農業者、北海道アグリネットワーク役員および上川宗谷留萌ブロック会員と幅広く声かけを行い107名の参加となった。併せてzoomによるWEB配信を行った。

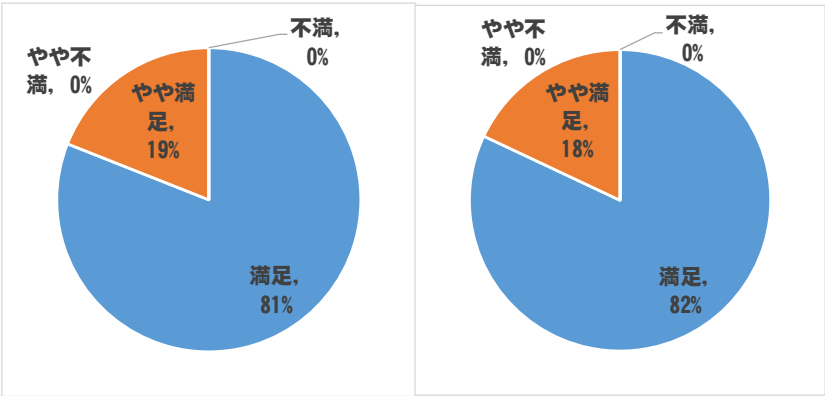
１日目に取組紹介やアグリメッセージに加えて遠別農業高校のプロジェクト発表を行い、２日目は青年農業者交流研修会として、栗山町で農業経営を軸にファッションブランドの設立等業界を飛び越えて多種多様に活躍している、荻野隼一氏を講師として招き、「新農業時代～農と共に生きる～」と題して講演いただき、その後、講師とアグリネットワーク役員によるパネルディスカッションを行った。また、「新しい農業のカタチ～農業×〇〇～」というテーマで、自分達で魅力ある会社を設立するとしたらどのようにするか？をテーマに青年農業者、遠別農業高校生、関係機関職員参加によるグループワークを行った。

２日間を通して質疑応答や意見が活発に出され、終了後のアンケートにおいても回答した全員が「満足」「やや満足」と答えるなど盛況に終了した（図１）。

遠別農業高校のプロジェクトでは、昨年青年が発表したプロジェクトをきっかけに水稲育苗ハウスを活用したイチゴの高設栽培導入や小平町４Ｈクラブの落花生プロジェクトとコラボした商品開発について発表されるなど、ファーマーズトークinRUMOIを介して留萌４Ｈクラブ連絡協議会と遠別農業高校が一体となった取り組みがされるようになった。

また、全道青年農業者会議への参加意欲も高まり、本年度の出席人数は、ファーマーズトークinRUMOIに改名して以降、最大だった昨年を上回る13名となり、取り組み紹介の中から北海道青年農業者会議へ２課題派遣することができた。

ファーマーズトークinRUMOIを開催した結果、次年度以降のプロジェクト活動や今後の行事に向けて前向きな意見が出されるなど、留萌管内４Ｈクラブ連絡協議会の活動やプロジェクト活動に対して意欲が高まる結果となった。



＜主な感想＞

・たくさんの発表があり見応えのある物でよかった！！（青年農業者）

・とても前向きな取り組みが多く良いエネルギーをもらった。（関係機関）

・楽しくて将来の選択肢が増えた。（高校生）

テーマが面白かった。高校生の柔軟な発想も活かせて、いろいろなアイディアが出て、楽しかった。（WEB参加）

図１　アンケート結果（左図：１日目・右図：２日目）※回答：１日目67名・２日目57名

写真１　取り組み紹介

写真２　グループワーク

写真３　講演会

(ｲ) 夏季交流研修会の開催

各青年農業者組織の学習・交流の他、各青年農業者組織への加入促進を目的に、会員以外の青年農業者や新規就農者（過去２年以内に受講したるもい農業基礎ゼミナール生）との交流を図るため夏季交流会を開催した。本年度は、基幹作物である水稲の省力化栽培（直播栽培）を行っている会員の水田および小平町４Ｈ町クラブ落花生プロジェクトほ場の視察と交流会を行った。

その結果、会員13名、他管内青年農業者２名、農業ゼミナール生３名、会員家族９名、関係機関19名が出席し、出席者の100％が満足と答えるなど活発な交流研修会となった。

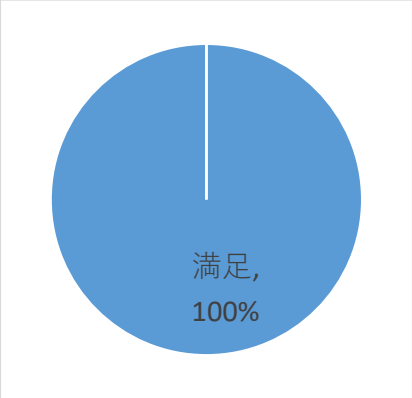


図２　アンケート結果（交流研修会の満足度）

※回答：出席者（４H会員・農業基礎ゼミナール生・他管内青年農業者）15名

写真４　ほ場視察の様子

写真５　交流会の集合写真

(2) 新規就農者の経営能力向上

ア 新規就農者の育成・確保

(ｱ) るもい農業基礎ゼミナールの開催

地域係と連携し、新規就農者（就農５年目以内の就農者、女性農業者、法人従業員）を対象に「るもい農業基礎ゼミナール」開講（表１）、「栽培管理技術」の習得と「地域（市町村）を越えた仲間作り」による新規就農者の地域への定着を図った。本年は、受講者は中分校の２名となったが、地域係の協力の下解りやすい講義内容の工夫や日頃のフォローアップの結果、出席率や理解度が高い結果となった。また、本年度は全体講座として、ＪＡるもいの協力の下で機械の整備点検とについての研修会を行い、過去のゼミ生も含め５名が参加した。。併せて情報・有機・クリーン主査によるＧＡＰ手法を用いた農作業安全についての内容も取り入れた。

機械の整備点検は、基幹作物の水稲の移植機を中心にＪＡるもいの機械センターの職員より基本的な整備点検や、不具合が発生したときに確認する箇所、その対応方法など実践的な研修となり、受講生の理解や満足度は高かった。

表１　令和5年度るもい基礎ゼミナール開講状況

		中分校	南分校	畜産分校
		耕種コース	耕種コース	酪農コース
対象者数（名）		2		
開催日	１回目（名）	4/26　(2)		
	２回目（名）	6/29　(2)		
	３回目（名）	8/30　(2)		
	４回目（名）			
	全体講座（名）	11/27　(6)		

※Ｒ５年度の開講は中分校耕種コースのみ

※全体講座の対象はＲ４年度およびＲ５年度受講者

表２　るもい農業基礎ゼミナールの目的

★地域農業の基礎的な技術や知識を習得する
★農業や経営の仕組みを知る
★農業者として目標・夢を持てるように
★農業・農村の良さを理解し、農村生活を楽しむ
★たくさんの人と知り合う（仲間づくり）

写真６　ゼミナールの準備
～理解しやすい講義の工夫～

写真７　ゼミナールの様子①
（中分校）

写真８　ゼミナールの様子
（全体講座）

＜ゼミナール生の主な感想＞
・機械のしくみが解ることで、事前に故障を回避でき機械を長持ちさせることができることがわかりためになった（全体講座）。
・親と栽培のことを話すときに、農薬や肥料、栽培技術のことを事前にゼミナールで学んだおかげで、疑問に思うことが少なく、ゼミナールを受講して良かった（中分校）。

(ｲ) るもい基礎ゼミナール合同研修会

地域を越えた仲間作りと地域若手農業者とつながる機会を作ることを目的に、留萌４Ｈクラブ連絡協議会と合同で夏期交流研修会を開催した。地域係を中心に参加を呼びかけ、農業ゼミナール生（対象Ｒ４、５年受講者）３名が参加した。

アンケート結果では、全員が「またこのような企画があれば参加したいですか？」の問いに「是非参加したい」と答え、「４Ｈクラブ活動に興味を持ちましたか？」の問いにも全員が「興味を持った」と答えるなど、会員外の青年農業者が４Ｈクラブ活動を理解するきっかけにすることができた。

るもい基礎ゼミナールをきっかけに、これまで４Ｈクラブがなかった地域の青年が、４Ｈクラブ活動に興味を持ち、令和５年は、羽幌町初山別村ピンクファイブに苫前町のゼミ受講生が１名加入（加入後名称をピンクファイブに改名）した。また、小平町４Ｈクラブも留萌市の受講生が活動に興味を示していることから、会員を南留萌エリアにと検討するなどの動きにもつながった。

(3) 女性農業者の経営資質の向上及びリーダー育成

ア 若手農業者の育成

若手女性農業者を対象に、農業知識の向上および乳製品加工技術習得を目標に、酪農に関する学習会およびアイスクリームの加工研修を行った。若手女性農業者および美留来のゆめ会員９名が参加した。

学習会では、普及センターより「写真で見る不思議の農場事例集～異常が日常～」と題し様々な事例をわかりやすく写真で紹介しながら牛の生態や管理作業について説明した。また、加工研修では、管内の加工グループ「美留来のゆめ」を講師に交流をしながらアイスクリームの加工技術や衛生管理について学んだ。参加した若手女性からは「このような機会を設けてもらえてうれしい」「学習会では説明がわかりやすくためになった。またこのような機会があるといいと思う」「今度は自分の家の牛乳で加工してみたい」と言った声が聞かれた。また、美留来のゆめ会員からは、「アイスクリーマの殺菌など衛生管理について改めて理解できた」といった感想があがった。

参加した酪農後継者と美留来のゆめの若手会員での情報交換も活発に行われるなど、『学習や情報交換の場を提供し、若手女性農業者同士の交流を図る』といった目標が達成された。

写真９　事例を写真で解りやすく

写真10　真剣に聞く受講生

写真11　加工研修の様子

(4) 農業法人の持続的な経営の安定

ア 農業法人の安定化支援

留萌管内の農業法人運営の安定や地域農業の課題解決等の情報交換の場を目的に「留萌管内農業法人研修会」を開催した。

本年度は、新規就農者の受入体制、新規就農者や農業後継者の育成支援体制等担い手対策に係る先進的事例を共有する場とすることを目的に、公営機材団法人道央農業振興公社を講師に招き、「道央農業振興公社における担い手対策等の取り組み」について講演いただいた。

法人構成員や青年農業者、ＪＡ、各町村の農業委員会等関係機関21名が参加した。

講演後、活発に質問や意見が出され、今後の留萌の担い手対策について法人や関係機関の立場各々から考えるきっかけの場とすることができた。

イ 農業法人のネットワーク化

令和３年度に行った「留萌管内農業法人情報交換会」において、留萌管内の農業法人のネットワーク化の意向についてアンケートを行った結果、出席法人の79％がネットワーク化が必要との回答した。また令和４年度の「留萌管内農業法人研修会」で法人のネットワーク化に向けて意見交換を行った結果では「留萌管内農業法人会設立」に向けて若手法人役員を中心に前向きな意見が多く出された。

このことから本年は、過去の法人研修会や情報交換会に出席した20法人に対し、「留萌管内農業法人会設立」の必要性と実際に設立された場合に加入の意向はあるのか戸別面談を行い確認を行った。その結果、ネットワーク化は必要と思うが、実際に加入するかは別と考える法人が大半を占め、現段階において留萌管内法人会の設立は難しいと考えられた。

一方で巡回中に初山別村の農業法人から「管内一円ではなく初山別村で設立できないだろうか」との意見があがり、意向を確認したところ初山別村の農業法人７法人中４法人が初山別村法人会が設立されれば参加すると答えた。

また、初山別村農業委員会からも、法人への活動支援の要請があり、関係機関と法人が情報共有する場が設けられた。その場で初山別村農業法人会設立までには至らなかったが、今後定期的に情報交換をする場を設けていくこととなった。

写真12　農業者から積極的な質問

写真13　法人研修会の様子

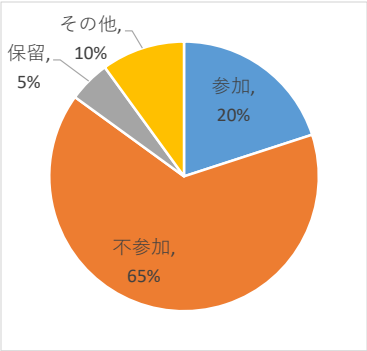


図３　アンケート結果（加入意向）

３　今後特に参考となる事項

(1) 担い手行事を軸にした広域３主査連携

担い手関係の行事について、情報有機クリーン主査、高付加価値主査の推進項目と合致する内容について情報提供や講習の場となるようマッチングした。また行事によっては、両主査の強みを活かし行事開催に対し支援を受けた。

３主査が連携し行事を開催することにより、担い手関係の行事をよりよいものにすることができ、３主査の業務を効率的に進めることができた。

＜主な担い手行事と連携内容＞

①ファーマーズトークinRUMOI・交流研修会
・連携先　　情報有機クリーン主査
・連携内容　ファーマーズトークinRUMOI・交流研修会のzoom配信の支援
（zoom配信に係る機材の準備、設定、当日の配信、チャットの管理）

②るもい農業ゼミナール全体講座
・連携先　　情報有機クリーン主査
・連携内容　ＧＡＰ手法を用いた管理による農作業安全の講習の実施

③若手女性研修会時の衛生管理研修
・連携先　　高付加価値主査
・連携内容　研修会参加者に向けた衛生管理の周知

④指導農業士・農業士会冬期研修会
・連携先　　高付加価値主査
・連携内容　管内の高付加価値事例からの講紹介、研修内容の助言
（役員会において冬期研修会の内容が６次化と決まったため）

４　今後の対応

(1) 管内広域組織の活動強化による活性化

ア 青年農業者組織の活性化支援

(ｱ) ファーマーズトークinRUMOIの開催

引き続き、留萌管内４Ｈクラブ連絡協議会の活動支援を行う。ファーマーズトークin RUMOIや交流会の開催により各青年組織の会員同士の交流に加え、会員以外の青年農業者や新規就農者（るもい農業基礎ゼミナール生等）との交流を図り、各青年農業者組織への加入促進を図る。

(2) 新規就農者の経営能力向上

ア 新規就農者の育成・確保

(ｱ) るもい農業基礎ゼミナールの開催

留萌管内の新規就農者は年間10名弱で推移している。るもい農業基礎ゼミナールが開講され５年が経過し、未受講の受講対象者も減り新規就農者の人数からも、今の１年カリキュラムでの開講が難しい状況になっている。

このため、カリキュラムの見直し等を行い、継続的に開講できる体制を整える。

(3) 女性農業者の経営資質の向上及びリーダー育成

経営管理能力の向上と留萌農業を担うリーダーの育成を目標に、若手女性を対象とした研修会や交流会の開催を行う。

(4) 農業法人の持続的な経営の安定

ア 農業法人の安定化支援

法人経営の安定化に向け、法人セミナー・法人情報交換会の開催する。

イ 農業法人のネットワーク化

初山別村の農業法人の活動に対し、地域係と連携し支援を行う。

(2) 情報・クリーン・有機

ア 情報

活動年次	令和５年度	担当班	本所広域班
推進事項と主な目標	・情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信 ①情報の共有化の整理・活用 ②外部への情報発信力の強化 ③農業情報の定期発信		
対　　象	所内及び留萌振興局管内		
担 当 者	中村主査、釣谷主任普及指導員、千石主査、水沼普及指導員、道端普及職員、近藤主査	連携機関	・管内８市町村 ・ＪＡるもい ・留萌振興局
関連事業			

1　活動のねらい

(1) 情報の共有化の整理・活用

共有ドライブの活用方法については、定期的な見直し（利用ルール・フォルダ構成等）をしながら、効率的に使用できるように改善していく。また、蓄積された共有情報は、保管場所の整理や周知を徹底し、利用しやすい体制を整える。

(2) 外部への情報発信力の強化

必要に応じて職員向けの各種研修会（ホームページ作成、動画編集、各種アプリ等）を開催し、積極的な情報入手・発信ができるように体制整備を行う。

(3) 農業情報の定期発信

地域ニーズに即したタイムリーな農業技術情報の発信を行う。そのために随時ホームページ、普及センターだよりの内容等の検討を行う。また、農業者以外にも積極的に情報発信を行い、地域農業に対する理解を深めていく。

2　活動内容と結果

(1) 情報の共有化の整理・活用

ア 共有ドライブの見直し

年度初めの推進会議において、共有(N)ドライブの利用および管理方法等について、職員が使いやすいように保存ルールの確認および見直しを行った。

イ 効率的な活用に向けての検討

共有ドライブの容量が大幅に増量されたことから、大容量データの蓄積が可能になったため、動画や画像を縮小加工することなくそのまま蓄積し活用しやすいルールとした結果、保存されたファイル数は昨年度と比較して５０％の増加に繋がった。また、職員の要望に応じて フォルダ構成の変更やフォルダの加除を都度行っている。

写真１　Zoom配信の開催支援
（機材設置、接続テスト等）

ウ 蓄積情報の整理や利用体制の整備

記録媒体メディア（ＣＤ，ＤＶＤ等）に蓄積している各種データ等の整理・見直し等を行うことで、管理リストを作成し職員が利用しやすい環境を整備した。

写真２　機材の配置

(2) 外部への情報発信力の強化

ア 配信機材の整備

WEB研修やリモート会議等のハイブリッド開催が増加し、Zoom等の様々なWEB会議アプリを利用する場面が多くなったことや、公共施設の音響設備を使用したZoomによる動画配信を実施したことから（写真１）、配信機材を見直し動画配信環境を整備すると共に機材のセッティング情報を整理、共有した（写真２）。

イ 職員向けの研修会（動画編集）を開催

動画を配信する際に、単純に記録するだけでなく、動画を編集する必要がある。そのため、編集作業が求められる職員のスキルアップおよび業務の効率化を図るため、事前登録し使用可能にしたフリーソフトを用いて動画編集の研修会を開催した（写真３）。また、業務で使用する機材類の不具合時や、職員が使用方法について不明な場合は都度、迅速に対応した。

写真３　動画編集の研修会

(3) 農業情報の定期発信

ア 地域ニーズに即したタイムリーな農業技術情報の発信と内容の検討

(ｱ) ホームページの更新

表１ ホームページ掲載記事数の推移　（件）

	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度
地域の話題	２７	３４	４５

情報伝達の即時性を活かしたタイムリーな「技術情報」と普及センターの活動を伝える「地域の話題」について、迅速に更新して発信することを心掛けた。各行事の担当者には記事作成を依頼し、職員会議等で記事案を提案することで記事作成を促進した。更新作業を素早く行うため作業はパソコン操作に堪能な職員に限定し、記事を作成する職員の負担を軽減することで、昨年度と比較して掲載本数が30％の増加に結び付いた（表１）。

(ｲ) 普及センターだよりの発信

普及センターだよりは活動体制や活動計画の周知を目的に、昨年度から発行を年一回としていた。今年度は配布先を検討した結果、ホームページ上に公開することとして、７月に発行した。

写真４　普及センターだより

３　今後特に参考となる事項

(1) 外部への情報発信力の強化

Smart道庁の推進に向けたデジタル化の取り組みが始まり、コロナ禍を経て情報処理の仕組みが徐々に変わってきている。より積極的に情報発信に努めることが重要であることから、既設の音響設備等を利用したZoomによる動画配信を実施するには、的確な人員配置や必要な機材を事前に検討した上で、トラブル対応時における機材の割当てを準備する必要がある。

４　今後の対応

(1) 情報の共有化の整理・活用

蓄積情報を整理し利便性を高め、職員が利活用しやすい体制を検討する。

(2) 外部への情報発信力の強化

複雑化し多様化しつつあるアプリや機材について、各種マニュアルを整備し職員向けの研修会を開催することで、職員のスキルアップを図る。

音響設備を利活用したWEB会議を実施していく上で必要な機材の接続準備や、操作方法の周知を推進する。

(3) 農業情報の定期発信

ホームページで「地域の話題」や「技術情報」の定期的な発信を継続する。

(2) 情報・クリーン・有機

イ クリーン・有機

活動年次	令和５年度	担当班	本所広域班
推進事項と主な目標	・安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進 ①クリーン・有機農業の情報収集 ②リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進		
対　　象	留萌振興局管内		
担当者	中村主査、釣谷主任普及指導員、千石主査、水沼普及指導員、西野普及職員、近藤主査	連携機関	・管内８市町村 ・ＪＡるもい ・留萌振興局 ・遠別農業高校
関連事業			

１　活動のねらい

(1) クリーン・有機農業の情報収集

管内の有機栽培、特別栽培、YES!clean栽培等クリーン農業の情報収集を行うことで現状と課題を整理するとともに、クリーン農業に関心のある農業者に対し情報提供を行い、推進の足掛かりとする。

(2) リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進

ＧＡＰ導入支援に向けた所内体制を構築し、農業者及び関係機関に対するＧＡＰの導入支援を行う。また、各種研修会で農業者や関係機関・団体が集まる場を活用し、ＧＡＰや農場ＨＡＣＣＰの啓発・情報交換を行う。認証が目的ではなく、経営の中に取り組むことで、持続可能な農業を推進する。

２　活動内容と結果

(1) クリーン・有機農業の情報収集

ア 有機栽培、特別栽培等の情報収集及び導入支援

本所・支所地域係と連携して、生産者リストや取り組み内容の把握および確認を行った（表１）。令和５年度については有機JAS、特別栽培、YES!claenの新規登録は無かった。

表１　管内の登録状況

項　目	件　数
有機JAS	9件(9戸)
特別栽培農産物	7件(3戸3団体)
YES!clean	19件(13団体)
エコファーマー	30件(30戸)

羽幌町、初山別村、遠別町の慣行農業者及び有機農業者へ有機農業に関する聞き取り調査を行った。

慣行農業者からは消費者に対して有機農産物の利点が伝わりづらいこと、有機栽培を実施することで現状より労働力が不足してしまう懸念があることが挙げられた。

有機農業に取り組む農業者からは有機農業に取り組む理由として、農産物として付加価値が高まることが第一の理由としていることが分かった。一方で、有機農業を継続していく上で、労働力不足が喫緊の課題として捉えていることが明らかとなった。

(2) リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進

ア ＧＡＰへの取り組みの啓発・支援

(ｱ) 遠別農業高校への支援　＜ASIAGAP（Ver2.3 改訂1版）＞

ASIAGAPが改訂されたため、今回の審査にあたり担当指導教員と事前点検を実施し、マニュアルの修正や整備の支援を行った。今年度は米(玄米)、青果物（玉ねぎ、馬鈴薯）の３品目の認証取得を目指し、更新審査(11月７～８日の２日間)が行われた。普及センターは主に担当指導教員に対し高校生へのＧＡＰ指導に関する助言を行った。

今回は生徒を代表して２名が審査員の質問に回答し、ＧＡＰは教育的側面もあることか

ら審査員による説明を時折交えて審査が行われた。代表以外の生徒達もスマホでASIAGAPの基準書を確認しながら審査を見守っており、ＧＡＰへの関心や理解が進んでいることが窺えた（写真１）。

実際の出荷作業が手順どおりであることや（写真２）、農薬が安全に保管されていることが審査員により確認され、審査を終えることができた（写真３）。しかし、いくつかの是正すべき箇所（トレーサビリティの記録、農薬の処分方法、残留農薬検査など）が指摘され、今後対応すべき課題も残った。審査結果では不適合箇所もあったものの後日、是正報告を行うことで認証取得となった。

写真１　代表生徒が受け答えしているところ

写真２　馬鈴薯の袋詰め作業を審査している様子

写真３　農薬が安全に保管されていることを確認

(ｲ) 管内ＧＡＰ推進状況

管内ＧＡＰに対する認識を考慮した場合、「ＧＡＰをとる」ではなく少しでもＧＡＰの考え方を浸透させる観点から「ＧＡＰをする」を重要視し、農業者によるＧＡＰへの抵抗感を減らすため、農業者が集まる場を活用し（写真４）、ＧＡＰによる片づけを推奨するパンフレットを配布した（写真５）。農業をする中で考えられる様々なリスクから農業者を守るために、ＧＡＰを用いてリスク管理することの大切さを説明することでＧＡＰの啓発に努めた。

写真４　ＧＡＰを使った片づけ術を解説しているところ

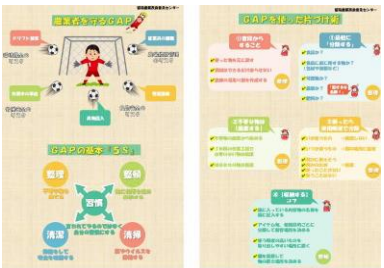


写真５　配布したパンフレット

イ 関係機関及び農業者主体の勉強会等活動支援

現状では認証取得に向けた具体的な動きはないが、知識向上を目的とした関係機関職員向けＧＡＰ研修会の要望があり、若手職員に対してＧＡＰの基礎について研修会を実施した。

３　今後特に参考となる事項

今年度の取り組みから、農業経営の改善や農作業の効率化を推進するために「ＧＡＰをする」を推奨し、様々な機会を捉え、ワンポイントでＧＡＰによる片づけを啓発していく活動が大切である。

４　今後の対応

(1) クリーン・有機農業の情報収集

有機栽培、特別栽培、YES!clean等の情報収集及び導入支援について、アンケート調査等から今後も継続して情報収集を行っていき、生産者リスト等の情報を更新していく。

(2) リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進

ア ＧＡＰへの取り組みの啓発・支援

様々なリスク軽減のために実際の農作業の中にＧＡＰを取り入れて実践する、「国際水準ＧＡＰモデル実践事例」を進めて行く。

イ 関係機関及び農業者主体の勉強会等活動支援

ＧＡＰ推進に向けた具体的な動きはないが関係機関と連携し勉強会等の支援を行っていく。

(3) 高付加価値化

活動年次	令和５年度	担当班	本所広域班
推進事項と主な目標	農商工連携による農畜産物の生産販売の振興 ・留萌管内特産品の創出 ・高付加価値化グループ及び高付加価値化志向者の能力向上		
対　　象	留萌振興局内高付加価値化グループ、高付加価値化志向者		
担 当 者	安田主査、釣谷主任普及指導員、 近藤主査、工藤主査、杉村専門普及指導員、 小島専門普及指導員、田中普及指導員	連携機関	・管内８市町村 ・管内ＪＡ ・留萌振興局 ・管内商工業者
関連事業			

1　活動のねらい

(1) 地域農畜産物による特産品開発支援

高付加価値化志向者に対し、特産品開発や販売力向上に向けた加工技術や衛生管理や営業許可に係る情報提供や支援を行う。

農畜産物加工に取り組む既存の農業者及びグループに対して、営業許可や衛生管理に関する法律への理解を深め、法令に基づいた取組を実践できるよう支援する。

(2) 魅力ある農畜産物の生産支援

留萌管内で生産されている農畜産物の知名度の向上や販売促進に向け、関係機関と連携してＳＮＳ等を活用したＰＲ活動、地域係と連携して生産活動の支援を行う。

農業者や商工業者のお互いの強みを生かした留萌管内の魅力ある農畜産物の加工品の創出や開発に向けてマッチング支援を行う。

(3) 高付加価値化事例の収集

管内事例の集積及び更新を行い、外部や高付加価値化志向者に向けての情報提供に活用していく。

2　活動内容と結果

(1) 地域農畜産物による特産品開発支援

ア 高付加価値化志向者の取り組み支援

高付加価値化志向者に対し、特産品開発や販売力向上に向けた情報提供および支援を行った（表１、写真１）。

支援にあたっては、北海道６次産業化サポートセンター、北海道よろず拠点、旭川産業創造プラザ、振興局商工労働観光課、地域係と連携し、高付加価値志向者の進捗状況にあわせた支援内容を検討しながら活動を進めた。

写真1 6次化関係補助事業等の情報提供（令和５年６月７日撮影）

表１ 高付加価値化志向者の取り組み支援

支援内容（市町村名・対象者）	活動内容
キッチンカー（移動販売）の開業に向けた支援（羽幌町）	小規模事業者持続化補助金、専門家派遣事業等補助事業、インボイス制度、パッケージ・ロゴデザイン業者等の情報提供
新商品開発支援（羽幌町「TIARA」）	①「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」手引書、パッケージ、ロゴデザイン業者の情報提供 ②北海道よろず拠点コーディネーターによる加工相談（WEB）支援（食品表示、食品保存検査項目等）
衛生管理向上支援（天塩町「べこちちFACTORY」）	①「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」取組支援（振興局商工労働観光課独自事業「専門家派遣事業」を活用） ②チーズ製造に係る研修会（WEB）参加支援
干しいも加工販売に係る支援（苫前町）	加工向け品種、加工適性、食品営業許可と届出、加工方法等の情報提供

イ 衛生管理向上支援

衛生管理向上研修の開催に向け、留萌保健所担当者との打合せ、高付加価値化志向者の意向確認および質問事項の集約を行った。研修会は、保健所担当者と連携し、「ＨＡＣＣＰの考え方を取り入れた衛生管理」の概要、衛生管理計画および記録の作成方法、営業許可の改正点などの内容で開催した（表２、写真２）。

写真2 保健所と連携した衛生管理向上支援（令和５年11月８日撮影）

「ＨＡＣＣＰの考え方を取り入れた衛生管理」は、食品事業者団体が作成した業種別手引書の様式に沿った「衛生管理計画書」および「衛生管理記録」の作成演習を行った。

そのことにより、農業者から「衛生管理計画書や記録は自分なりに作っていたが、衛生管理向上に向けたポイントがわかった。実践に向け、加工に従事する全員と共有したい」などの声が聞かれた。

表２ 活動内容

時期	対象（人数）	活動内容
６月～10月	留萌保健所担当者（２名）	留萌保健所担当者との打合せ （営業許可改正点・HACCP関連研修会の内容、講師依頼）
	高付加価値化志向者（５名）	管内女性ネットワーク運営会議にて、営業許可改正点、HACCPに係る情報提供、衛生管理研修会に係る意向確認
９～10月	留萌保健所担当者（２名）	留萌保健所担当者との打合せ（研修会の時期、場所、内容等）
11月８日	高付加価値化志向者（４名）	衛生管理向上研修 ①食品営業許可制度の改正点やHACCPに基づく衛生管理の概要、手引書の活用、計画書・記録の事例（演習含め） ②留萌管内もしくは道内で発生した食中毒事故の発生事例など ③衛生管理の見える化「正しい手洗い」について
11月17日	高付加価値化志向者（１名）	衛生管理向上研修（補講） 北海道食品産業協議会「専門家派遣事業」活用した「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」衛生管理計画および記録の作成支援

また、研修後のアンケートや地域係担当者の聞き取りにより、高付加価値化志向者の「今後の課題」を整理し、今後の支援内容を明確にできた（表３）。

表３ 今後の課題（抜粋）

農業者名（市町村名）	今後の課題
Ａ（遠別町）	営業許可の再申請 衛生管理計画・記録の作成
Ｂ（羽幌町）	商品パッケージの検討
Ｅ（苫前町）	原価計算による価格改定

(2) 魅力ある農畜産物の生産支援

ア 商工業者ニーズの把握と農業者との連携

(ｱ) コープさっぽろとの連携

令和５年度５月に振興局商工労働観光課主催で「コープさっぽろ（旭川・留萌）と管内事業者とのビジネス交流会」が開催された。

写真３ 青果卸業者より契約方法について説明（令和５年７月24日撮影）

農務課より「コープさっぽろ」では「ご近所やさい（直売）」や青果卸業を通じた販売が可能との情報提供を受け、販路拡大の意向があった生産者とのマッチングを行った。個別巡回にて、生産者４戸（うち法人２戸）に情報提供し、２戸が販売契約に至った（表４、写真３）。

農業者より「昨年は販路が十分確保できず、収穫物を廃棄した。今年は完売できた。販路が確保できるなら、面積を増やすことも考えたい」との声が聞かれた。

販路が確保できたことにより、農業者の農産物の栽培意欲向上につながった。

表４ 活動内容

時期	対象	活動内容
７月３日	コープさっぽろ担当者（２名） 振興局商工労働観光課担当者（１名）	「コープさっぽろ」との取引方法の意見交換および情報提供
６～７月	青年農業者（２戸）、法人（２戸）	販路拡大に向けた情報提供（個別巡回）
７月19日	青年農業者（１戸）	「コープさっぽろ「ご近所やさい」」との契約支援
７月24日	法人（１戸）	留萌市青果卸業者との契約支援
11～１月	青年農業者（１戸）、法人（１戸）	出荷状況、今後の意向確認

(ｲ) 未利用資源の活用

本所地域係が主体となり、天塩町の養鶏業者と遠別町の色素抽出業者および初山別村の耕種法人との未利用資源活用のマッチング支援を行った（表５、写真４）。遠別町の色素抽出業者は赤じその色素抽出残さ、初山別村の耕種法人はスイートコーン残さ、加工用かぼちゃやミニトマトなど規格外品の飼料化の検討を行った。また、赤じその色素抽出残さ、スイートコーンの残さでサイレージを試作した結果、赤じそ色素抽出残さがサイレージ化が可能であることが確認できた（写真５、６）。

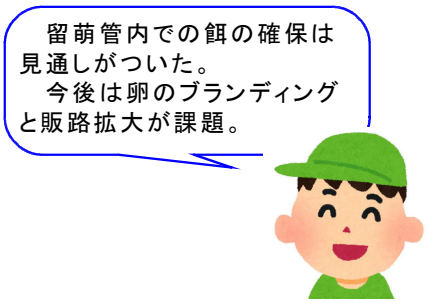
写真４ 養鶏業者と耕種法人との未利用資源活用マッチング支援
（令和５年７月18日撮影）

表５ 活動内容

時期	対象	活動内容
４～５月	色素抽出業者（遠別町）	・令和４年度色素抽出用（赤じそ、赤きゃべつ、紫さつまいも）残さサイレージ化分析結果の情報提供（地域係）
６～12月	養鶏業者（天塩町） 色素抽出業者（遠別町） 耕種法人（初山別村）	・養鶏業者と色素抽出業者および耕種法人とのマッチング（地域係） ・未利用資源（赤じそ色素抽出残さ、スイートコーン収穫残さ）サイレージ化支援（地域係）
10月	養鶏業者（天塩町） 耕種法人（初山別村）	・加工用かぼちゃの規格外品の飼料化支援（地域係）
１月	養鶏業者（天塩町）	・北海道６次産業化サポートセンターオンライン相談支援 （現状、課題、今後の支援内容など）

写真５ 未利用資源サイレージ化支援
（令和５年９月４日撮影）

写真６ 赤じそ色素抽出残さサイレージの鶏の嗜好性を確認
（令和５年12月５日撮影）



(ｳ) ＪＡるもい農畜産物の販促に係る支援

ＪＡホームページ「ＥＣサイト」で販売する農畜産物、加工品等の販促のため、ＪＡプロジェクトチームと連携し、ＪＡホームページに掲載するレシピの作成・情報発信に係る支援を行った（写真７、表６、７）。また、担い手主査と連携し、管内女性ネットワークが作成したレシピ集をＪＡ担当者と共有し、レシピ作成に活用した。また、ＪＡ担当者より依頼があり、ＪＡ女性部オロロン支部羽幌ブロック冬期研修会にて、ＪＡホームページレシピの試作・改良の加工技術支援を行うと共に、地域係と連携して、水稲・園芸作物の栽培の基礎研修を行い、女性農業者の地元農産物のＰＲ活動と栽培技術向上支援を行った。

写真７ ホームページ掲載用写真
撮影（令和５年８月10日撮影）

表６ JAるもい農畜産物の販促に係る活動内容

時期	活動内容
R5．３月	JAるもいプロジェクトチーム員との打合せ　（活動目的、内容等の確認）
４～12月	JAるもいホームページレシピ作成・掲載支援（４回） （米、アスパラ、メロン、トマト、ミニトマト、かぼちゃ、牛乳、チーズ、ルルロッソ粉、甘酒など）
12月13日	JAるもい女性部オロロン支部羽幌ブロック冬期研修会（５名）（地域係と連携して支援） （JAるもいホームページレシピの試作・改良、水稲・園芸作物栽培の基礎研修）

表７ JAるもい農畜産物の販促に係る役割分担

区分	内容
JA	レシピの作成、写真・動画撮影、ホームページ作成、SNSでの情報発信
普及センター	農畜産物や加工品を使ったレシピ提案および情報提供、加工支援

(3) 高付加価値化事例の収集

ア 留萌管内高付加価値化事例更新（７件）および新規事例（１件）、小規模受託加工業者の管内事例（１事例）、食品加工機材業者（１件）の事例収集を行った（表８）。収集した事例は、高付加価値化志向者や関係機関への情報提供、高付加価値化に関する助言・支援のために活用していく。

イ 蓄積した留萌管内の高付加価値化取組事例は、他管内の養鶏業者や管内食品加工販売業者等への情報提供、農務課との連携活動に活用した（表９、表10）。

表８ 加工業者、食品機材業者等の事例収集

業者名	業務内容
「天塩の國」（天塩町）	水産加工製造卸業・農産品卸小売業・小規模受託加工 飲食店メニュー開発・食品企画製造販売プロデュース
「北海道オリオン」（札幌市）	食品加工機器製造、加工技術・衛生管理指導

表９ 外部への情報提供

対象者（人数）	内　容
養鶏業者（稚内市）（１名）	留萌管内産小麦粉の入手方法、「専門家派遣事業」等 （宗谷農業改良普及センターとの情報共有）
フタバ製麺担当者（留萌市）	天然色素「紅イモエキス」に関する情報提供

表10 農務課との連携

対象者（人数）	内　容
農務課農政係担当者	羽幌町「ＴＩＡＲＡ」事例紹介（「農家の友」取材協力）
農務課農業経営係担当者	留萌管内高付加価値化事例の紹介（管内指導農業士・農業士会研修会の講師選定に係る打合せ）、若手女性農業者加工研修支援

３　今後特に参考となる事項

(1) 高付加価値化推進に向けた地域係との連携について

「未利用資源の活用」の活動では地域係と広域主査との役割分担を明確にしながら活動を進めた。地域係は対象者の現状や要望などの把握、栽培技術や飼養管理技術などの生産技術支援、広域主査は地域係から要請を受け、高付加価値化志向者の取組状況に合わせた情報提供や専門家派遣事業を活用した経営・技術向上支援を行い、効率的に活動を進めることができた。

４　今後の対応

(1) 地域農畜産物による特産品開発支援

高付加価値化志向者の支援は、地域係や関係機関と連携し、特産品開発や販売力向上に向けた支援を行う。

(2) 魅力ある農畜産物の生産支援

地域係や関係機関と連携して生産販売を支援する。

(3) 高付加価値化事例の収集

管内の高付加価値化事例は、今後も継続して活動内容の更新と新規事例等の情報の蓄積に努める。また、各事例の要望に沿う支援を行う。